

文部科学省が8月7日に公表した「学校基本調査」(速報値)によると、大学は前年度より1校減少し782校で、学生数は前年度より7,206人減少し2,868,928人であるという。

この調査の中に、「卒業後の状況調査」という項目がある。平成25年3月に大学(学部)を卒業した者(年度途中の卒業者を含む。)は、558,853人で前年度より161人増加している。卒業者の状況を見ると、大学院等への進学者は11.3%で、正規の就職者は63.2%となっている。正規の就職者は前年度の60.0%から3.2ポイント上昇しており、就職環境が好転してきたことが窺える。問題は、非正規の職員としての採用、一時的な仕事に就いた者、卒業後、就職も進学もしない者を合わせると約11万6千人、率にして20.7%もいることだ。

『大学は出たけれど』(小津安二郎監督)の映画ではないが、せっかく高等教育を受けながら定職にも就けず、とならないようしなければならない。ちなみに、同映画は1929年に公開されているが、当時の昭和初期の大卒の就職率は約30%といわれ、大学への進学そのものが少数のエリートであることを考え合わせれば、現在とは比べられないほどの極めて厳しい不況下にあったのだろう。

『物流問題研究60号(2013年夏)』は「物流人材マッチングプログラム」を特集のテーマとして取り上げた。ロジスティクスを専門として学ぶ本校の学生の就職活動と物流企業とりわけ中堅中小の物流企業の採用活動をサポートする試みである。参加する学生と企業のマッチングイベントは9月28日であり、本号ではその結果を報告することはできないが、1人でも多くの学生が内定に漕ぎ着くことができればと、教員の一人として願うばかりである。

本誌は本学ホームページに掲載しており、誰でも閲覧できる。「知の共有」の場として少しでも役立てばと考えている。

なお、本誌の掲載論文ならびにロジスティクス産学連携コンソーシアムのタイムリーな活動情報も、本学のホームページにも掲載しており、是非お立ち寄りいただければ幸甚である。(http://www.rku.ac.jp/distribution/index.html)

(小野)